

消費者の健康に関する意識と酒類消費との関係調査

宇都宮 仁・柳谷 光弘・橋爪 克己

Research of relations between attitudes toward health and
alcoholic beverages consumption of consumers

Hitoshi UTSUNOMIYA, Mitsuhiro YANAGIYA and Katsumi HASHIZUME

緒 言

人が飲酒する動機としては、帰属する社会集団に受容されより親密な集団意識を得たいとする社会的動機、不安・鬱といった負の感情状態からの逃避や緩和を図るための対処性動機、酔いによる気分高揚性動機、食事のおいしさや知的な快楽を求める動機などがあり、一方、飲酒に抑圧的に働く動機としては、アルコールによる酩酊の回避とともに過剰なカロリー摂取や健康を損ねることを回避する健康上の動機が考えられている¹⁾。

当所では、平成16年2月に「消費者の健康に関する意識と酒類消費との関係調査」^{2,3)}を実施し、飲酒者の飲酒動機あるいは特定の酒類の選択に健康意識がどの程度関係しているか、また、非飲酒者の非飲酒動機にどの程度関係しているか等について情報提供を行った。その後、消費者の健康意識はメタボリックシンドロームに対応した新たな健康診断制度の始まりなどにより変化し、酒類消費や選択の動機に影響を与えていると予想される。

そこで、前回とほぼ同じ内容の調査を実施しこれらの変化について検討を行った。

調 査 方 法

(1) 調査の概要

前回調査は郵送によるアンケート方式で実施したが、当時より各家庭におけるインターネット接続環境が整い情報の信頼性において大きな問題はないと判断しインターネットリサーチによる調査とした。

調査対象者は、全国の20歳以上70歳未満の成人約5,000人とし、各都道府県に性別年代別が均等になるように割り当てた。調査は平成21年2月20日～25日に実施し、アンケートの総回収数は5,875であった。これを人口最小県である鳥取県の男性を65サンプルとした際の母集団構成が、平成17年国勢調査に準拠した性別年代別構成及び都道府県別の人口構成になるようにウェイトバック集計を行った。

調査対象者の募集と調査の実務は、(株)インテージ・インタラクティブに委託した。

(2) アンケート様式

調査に用いたアンケート様式は、表1に示した。

結果及び考察

1. 回答状況

(株)インテージ・インタラクティブの登録モニターから、各都道府県の性別年代別が10サンプル以上となるように割り当てを行い、その結果総回収数は5,875であった。回答者の分布及びウェイトバック後の分布を表2、表3に示した。ウェイトバック後の合計数は29,159である。

表1 アンケート様式

<p>全員 Q1 現在、あなたはご自身を健康だと思いますか。 (回答は1つ) ①そう思う、②ややそう思う、③どちらとも言えない、④あまりそう思わない、⑤そう思わない</p>
<p>全員 Q2 健康に関する以下の項目について、あなたご自身にどの程度当てはまりますか。 (回答は横の行ごとに1つずつ) (1) 体重の増減に気を配るようにしている (2) 自分や家族の健康を気にかけるようにしている (3) 自分なりの健康法を持っている (4) 健康診断は定期的に受けるようにしている (5) 1日3回の食事をきちんと取っている (6) 栄養バランスを意識している (7) 夜遅い時間の飲食を控えるようにしている (8) 睡眠を充分とるようにしている (9) 飲酒を控える、または飲んでも適量を心がけている (10) たばこを吸わない (11) スポーツなどで体を動かすようにしている (12) 無農薬や有機野菜などの食材を買うようにしている (13) ストレスをためないように心がけている (14) 必要に応じて栄養補助食品を取るようにしている (15) 「息が少しはずむ程度」の運動を週に2日以上1日30分以上行っている (16) できるだけ歩くようにしている (17) 規則正しい生活を心がけている (18) テレビや雑誌などの健康情報は観るようにしている (19) 食事は会話しながら時間をかけるようにしている (20) 惣菜、コンビニエンスストアや市販の弁当などは極力控えるようにしている (21) 食品の安全性にはできるだけ注意を払うようにしている ①当てはまる、②やや当てはまる、③どちらとも言えない、④あまり当てはまらない、⑤当てはまらない</p>
<p>全員 Q3 以下の症状のうち、あなたに当てはまるものはありますか。 (回答はいくつでも) 1 血糖値が高い、または糖尿病である 2 血圧が高い、または高血圧症である 3 コレステロールや中性脂肪の値が高い 4 γ-GTP など肝障害を示す値が高い 5 尿酸値が高い 6 太り気味である 7 やせている 8 便秘しやすい 9 下痢しやすい 10 胸やけ・げっぷが多い 11 疲れやすい 12 食欲がない 13 眠れない 14 動悸がする 15 めまいを感じる 16 息切れがひどい 17 その他(具体的に:)</p>
<p>全員 Q4 あなたは普段どの程度お酒を飲みますか。 (回答は1つ) ① ほぼ毎日 ② 週に3~5回 ③ 週に1~2回 ④ 月に2~3回 ⑤ 月に1回以下 ⑥ 以前は飲んでいたがやめた ⑦ 飲まない</p>
<p>Q4にて⑥、⑦の選択者のみ Q5 Q4で「以前は飲んでいたがやめた」、または「飲まない」とお答えになった理由は何ですか。 (回答はいくつでも) 選択肢ランダム化 1 あまりお酒を美味しいと思わないから 2 お酒が値上がりしたから 3 お酒に弱いから 4 お酒が好きではないから 5 健康によくないから 6 以前、お酒で健康を害したから 7 医者に止められたから 8 家族や友人に止められたから 9 通勤・通学、買い物などで車を運転することが多いため 10 お酒ではなく、他のこと(趣味など)に時間を使いたいから 11 お金を節約するため 12 その他</p>

Q 4にて①～⑤の選択者のみ

Q 6 1日、もしくは1回あたりの平均飲酒量は、日本酒に換算してどの程度ですか。

(回答は1つ)

注) 日本酒1合=ビール:500ml 缶(中瓶) 1本/ワイン:グラス2杯(220ml) /焼酎:0.6合(110ml) /ウイスキー:ダブル1杯(60ml)

- ① 1合未満
- ② 1～2合未満
- ③ 2～3合未満
- ④ 3合以上

Q 4にて①～⑤の選択者のみ

Q 7 あなたがお酒を選ぶときに重視するポイントは何ですか。

(回答は横の行ごとに1つずつ) 選択肢ランダム化

- (1) 味、おいしさ
- (2) 食事がおいしくなる
- (3) 誰と一緒に飲むか
- (4) 季節
- (5) 価格
- (6) 手軽さ
- (7) ブランド
- (8) どこでも購入できる
- (9) 酔いやすい
- (10) 美容によい
- (11) アルコール度数
- (12) 糖分(カロリー)
- (13) 二日酔いになりにくい
- (14) プリン体
- (15) 製造方法
- (16) 製造年月・賞味期限
- (17) その他(具体的に:)

①重視する、②やや重視する、③どちらとも言えない、④あまり重視しない、⑤重視しない

全員

Q 8 以下のお酒は健康に良いと思いますか。

(回答は横の行ごとに1つずつ) 選択肢ランダム化

- (1) ビール
- (2) 発泡酒・新ジャンル(第3のビール)
- (3) 連続式蒸留焼酎(ホワイトリカー)
- (4) 単式蒸留焼酎(米焼酎、麦焼酎、いも焼酎、泡盛など)
- (5) 日本酒
- (6) 白ワイン
- (7) 赤ワイン
- (8) ウイスキー
- (9) ブランデー
- (10) チューハイ・サワー
- (11) 梅酒

①健康に良いと思う、②やや健康に良いと思う、③どちらとも言えない、④あまり健康に良いとは思わない、⑤健康に良いとは思わない

Q 4にて①～⑤の選択者のみ

Q 9 健康とお酒に関する以下の項目について、あなたご自身はどの程度当てはまりますか。

(回答は横の行ごとに1つずつ)

- (1) 日々の自分の酒量に気をつけている
- (2) お酒を飲むときは飲みただけ飲む
- (3) ある時間を過ぎるとお酒は控えるようにしている
- (4) 空腹時の飲酒は避けるようにしている
- (5) 休肝日(お酒を飲まない日)を設けている
- (6) お酒なら何でも飲む
- (7) お酒を飲みながら、話したり騒いだりすることが好きだ
- (8) イッキ飲みはしないようにしている
- (9) 飲む量をあらかじめ決めてしている
- (10) 2日以上続けて飲まないようにしている
- (11) 酔いつぶれるまで飲んでしまうことがある
- (12) ストレスをまぎらわすためお酒を飲んでいる
- (13) 健康に良いと言われているお酒を飲むようにしている
- (14) 自分と相性の良いお酒を飲むようにしている
- (15) いろいろな種類のお酒を同時に飲まない
- (16) カロリーの低いお酒を飲むようにしている
- (17) 飲酒の前に、あらかじめ乳製品を摂取するようにしている
- (18) お酒を飲まない日はない
- (19) つき合いがあるので飲酒は欠かせない
- (20) 体調がすぐれないときはお酒を飲まないようにしている
- (21) 飲む前や後に、胃腸薬やドリンク剤などを飲むようにしている
- (22) アルコール度数の高いお酒は飲まないようにしている
- (23) 冷たいお酒を飲まないようにしている
- (24) テレビや雑誌などの健康とお酒に関する情報は必ず見るようにしている
- (25) 飲みたくなくても、飲み会などに誘われるとたいていは参加する
- (26) 二日酔いにならなくなようなお酒を飲むようにしている
- (27) お酒を飲んでいる途中で積極的に水を飲むようにしている

①当てはまる、②やや当てはまる、③どちらとも言えない、④あまり当てはまらない、⑤当てはまらない

<p>Q 4にて①～⑤の選択者のみ Q10 「お酒が飲めないとき」や「お酒を飲みたくないとき」に、主にどのような飲料を飲みますか。 (回答は1つ) 選択肢ランダム化</p> <ol style="list-style-type: none"> ① コーヒー ② 紅茶 ③ 緑茶 ④ ウーロン茶 ⑤ 水 (ミネラルウォーターや炭酸水を含む) ⑥ 炭酸飲料 (炭酸水を含まない) ⑦ 果汁飲料 ⑧ 野菜ジュース・トマトジュース ⑨ スポーツドリンク ⑩ カルピスなどの乳酸菌飲料 ⑪ ノンアルコールのビールやワイン ⑫ その他 (具体的に: _____)
<p>全員 Q11からQ17については、質問順序 (酒類の順序) をランダム化 Q11 「ビール」に対して、あなたが思っていることをお答えください。 *上記のお酒を飲まない人はイメージでお答え下さい (回答は横の行ごとに1つずつ) 選択肢ランダム化</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) カロリーが高いと思う (2) 二日酔いになりやすいと思う (3) 糖尿病になりやすいと思う (4) 肝臓へ負担がかかりやすいと思う (5) 心臓へ負担がかかりやすいと思う (6) 痛風になりやすいと思う (7) 頭が痛くなりやすいと思う (8) お腹の調子が悪くなりやすいと思う (9) 気持ち悪くなりやすいと思う (10) 健康に良いとされる成分が含まれると思う <p>①そう思う、②ややそう思う、③どちらとも言えない、④あまりそう思わない、⑤そう思わない</p>
<p>全員 Q12 「発泡酒」や「新ジャンル」に対して、あなたが思っていることをお答えください。 Q11と回答は同じ、Q17まで同様</p>
<p>全員 Q13 「焼酎」に対して、あなたが思っていることをお答えください。</p>
<p>全員 Q14 「日本酒」に対して、あなたが思っていることをお答えください。</p>
<p>全員 Q15 「ワイン」に対して、あなたが思っていることをお答えください。</p>
<p>全員 Q16 「ウイスキー」に対して、あなたが思っていることをお答えください。</p>
<p>全員 Q17 「チューハイ・サワー」に対して、あなたが思っていることをお答えください。</p>
<p>全員 Q18 健康を考えたお酒を飲んだことがありますか。飲んだことがあるお酒をお答えください。 (回答はいくつでも) 選択肢ランダム化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 カロリーカット、糖質0 (ゼロ) 2 アルコール分が少ない 3 プリン体が少ない 4 ポリフェノールを多く含む 5 その他 (具体的に: _____) 6 健康を考えたお酒を飲んだことがない
<p>Q18にて①～⑤の選択者のみ Q19 健康を考えたお酒を飲もうと思ったきっかけは何ですか。 (回答はいくつでも) 選択肢ランダム化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康に良い酒だとたくさん飲めるから 2 家族や友人に勧められたから 3 医者に勧められたから 4 他のお酒に飽きたから 5 ダイエットに良さそうだから 6 店で商品が目についたのでなんとなく 7 その他 (具体的に: _____)
<p>Q 4にて①～⑤の選択者のみ Q20 お酒の表示に関して次のような表示を気にしますか。 (回答は横の行ごとに1つずつ) 選択肢ランダム化</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 国産原料 (2) 水 (水源、天然水など) (3) 有機栽培 (4) 契約栽培 (5) 遺伝子組み換え原料使用の有無 (6) 添加物 (酸化防止剤、保存料、色素など) <p>①まったく気にしない、②あまり気にしない、③やや気にする、④気にする、⑤かなり気にする</p>

表2 回答者の分布

	男 性						女 性					
	男性計	20代	30代	40代	50代	60代	女性計	20代	30代	40代	50代	60代
回収数計	2916	583	587	584	569	593	2959	601	622	597	599	540
北海道	71	16	15	13	10	17	63	15	13	11	14	10
青森県	60	13	11	12	11	13	63	13	13	15	10	12
岩手県	62	12	11	14	13	12	65	11	13	18	13	10
宮城県	68	12	12	14	14	16	66	12	17	11	14	12
秋田県	63	12	12	13	13	13	69	17	12	15	14	11
山形県	62	13	11	13	11	14	68	13	15	11	17	12
福島県	65	12	15	14	14	10	61	10	12	11	18	10
茨城県	61	13	10	12	14	12	68	13	15	16	11	13
栃木県	64	15	14	12	11	12	58	11	11	13	12	11
群馬県	60	12	13	11	13	11	60	13	12	12	12	11
埼玉県	61	13	11	12	12	13	56	10	13	10	13	10
千葉県	64	12	15	12	14	11	58	10	15	12	10	11
東京都	63	15	13	12	11	12	58	14	11	11	12	10
神奈川県	63	14	11	13	12	13	63	13	15	12	12	11
新潟県	59	12	10	12	13	12	60	12	13	12	12	11
富山県	62	12	13	13	11	13	64	14	12	15	10	13
石川県	59	11	16	11	11	10	60	13	12	11	13	11
福井県	64	11	15	14	10	14	69	15	17	14	14	9
山梨県	56	12	10	11	10	13	60	11	12	13	11	13
長野県	65	13	12	13	15	12	74	14	16	17	13	14
岐阜県	62	12	14	11	12	13	65	15	14	12	12	12
静岡県	59	11	11	13	11	13	66	11	17	13	15	10
愛知県	64	11	11	12	13	17	67	14	13	12	16	12
三重県	63	11	14	12	12	14	59	12	11	11	13	12
滋賀県	60	13	13	11	11	12	58	10	12	12	13	11
京都府	64	13	13	12	14	12	57	11	11	12	11	12
大阪府	62	13	10	12	11	16	63	13	14	12	13	11
兵庫県	59	12	15	10	11	11	65	14	12	13	11	15
奈良県	64	10	13	15	10	16	67	12	16	17	11	11
和歌山県	60	11	11	13	14	11	67	13	16	13	12	13
鳥取県	64	17	12	13	12	10	64	12	13	13	16	10
島根県	59	12	12	12	12	11	60	13	11	12	14	10
岡山県	59	13	11	10	13	12	62	13	12	12	13	12
広島県	71	12	13	12	15	19	61	12	11	16	10	12
山口県	62	16	11	12	10	13	65	12	13	12	13	15
徳島県	60	12	12	12	13	11	65	11	15	14	13	12
香川県	64	10	15	15	11	13	63	14	11	13	12	13
愛媛県	63	13	14	12	12	12	60	15	10	12	10	13
高知県	60	11	12	14	13	10	63	16	14	11	12	10
福岡県	58	12	12	10	13	11	59	13	13	10	12	11
佐賀県	61	12	13	14	11	11	62	15	15	11	11	10
長崎県	55	11	10	10	11	13	60	12	10	11	15	12
熊本県	59	12	13	11	13	10	65	12	17	13	12	11
大分県	70	14	11	20	13	12	62	16	11	13	12	10
宮崎県	62	12	16	11	12	11	69	12	17	13	14	13
鹿児島県	59	11	11	13	12	12	55	11	11	10	13	10
沖縄県	61	11	14	11	11	14	67	13	13	14	15	12

表3 ウェイトバック後の分布

	男 性						女 性					
	男性計	20代	30代	40代	50代	60代	女性計	20代	30代	40代	50代	60代
合 計	14657	2749	3226	2743	3273	2666	14502	2613	3119	2683	3268	2819
北 海 道	625	114	127	119	149	116	663	112	132	125	161	133
青 森 県	155	26	30	32	38	29	163	26	30	33	40	34
岩 手 県	147	25	28	30	36	28	151	24	28	30	36	33
宮 城 県	267	55	55	51	61	45	266	53	54	51	60	48
秋 田 県	122	19	22	25	32	24	125	18	21	25	32	29
山 形 県	129	22	24	26	33	24	129	21	24	26	31	27
福 島 県	227	40	44	47	56	40	223	38	43	45	53	44
茨 城 県	351	64	75	66	82	64	330	59	68	62	79	62
栃 木 県	237	43	51	46	57	40	222	39	47	43	53	40
群 馬 県	233	41	51	44	55	42	222	38	47	41	53	43
埼 玉 県	875	164	204	158	188	161	819	149	185	145	184	156
千 葉 県	741	140	170	134	160	137	703	127	157	125	159	135
東 京 都	1555	331	381	290	300	253	1479	301	356	266	287	269
神 奈 川 県	1097	217	271	206	217	186	1015	189	243	184	212	187
新 潟 県	267	46	53	52	66	50	262	43	51	50	64	54
富 山 県	124	21	27	22	30	24	122	19	25	22	30	26
石 川 県	131	25	28	24	31	23	131	23	28	24	31	25
福 井 県	88	15	19	17	21	16	88	15	18	17	21	17
山 梨 県	99	18	21	20	22	18	96	16	20	19	22	19
長 野 県	239	40	52	46	55	46	234	38	49	45	54	48
岐 阜 県	233	41	50	43	54	45	237	42	49	44	55	47
静 岡 県	439	76	97	84	100	82	424	71	90	80	98	85
愛 知 県	872	173	208	160	178	153	819	155	190	148	174	152
三 重 県	208	36	45	40	47	40	208	35	44	40	47	42
滋 賀 県	158	32	35	29	35	27	154	30	34	29	34	27
京 都 府	298	63	64	51	64	56	306	61	65	52	68	60
大 阪 府	1024	193	236	177	217	201	1042	192	238	178	224	210
兵 庫 県	622	110	138	115	140	119	648	115	142	119	145	127
奈 良 県	156	28	32	28	36	32	167	30	34	31	39	33
和 歌 山 県	109	17	22	21	26	23	116	18	23	22	28	25
鳥 取 県	65	12	12	13	16	12	65	11	12	13	16	13
鳥 根 県	76	12	14	15	20	15	77	12	14	15	19	17
岡 山 県	211	39	44	38	49	41	215	39	44	39	49	44
広 島 県	321	58	69	59	75	60	322	56	69	58	75	64
山 口 県	158	26	31	28	40	33	165	26	31	30	41	37
徳 島 県	87	15	17	16	22	17	89	15	17	17	22	18
香 川 県	110	19	23	20	27	21	111	18	23	21	27	22
愛 媛 県	156	26	31	30	39	30	164	27	32	31	40	34
高 知 県	84	14	16	16	21	17	86	14	16	16	21	19
福 岡 県	553	114	115	101	128	95	586	114	121	107	135	109
佐 賀 県	90	16	17	18	23	16	95	17	18	19	23	18
長 崎 県	152	25	29	31	39	28	163	26	31	33	40	33
熊 本 県	191	35	36	38	47	35	202	35	38	41	48	40
大 分 県	127	22	24	24	32	25	134	22	25	26	33	28
宮 崎 県	120	20	22	24	31	23	128	21	24	26	31	26
鹿 児 島 県	179	31	32	37	46	33	189	33	35	39	44	38
沖 縄 県	149	30	34	32	32	21	147	30	34	31	30	22

2. 健康状態及び健康に関する意識（問1～3）

問1の「自分を健康だと思うか」という質問に対し、全体の60.8%の人が「そう思う」、「ややそう思う」と肯定的に回答した。これは前回調査から8.1ポイント低下した。厚生労働省が約28万世帯を対象に実施している国民生活基礎調査^{4,5)}において、自分の健康をよいと思っている者（25歳以上64歳以下の年代）の割合を平成16年と平成19年で比較すると5.8ポイント低下しており、自分を健康だと思う者の割合の低下は近年の傾向であろうと考えられる。

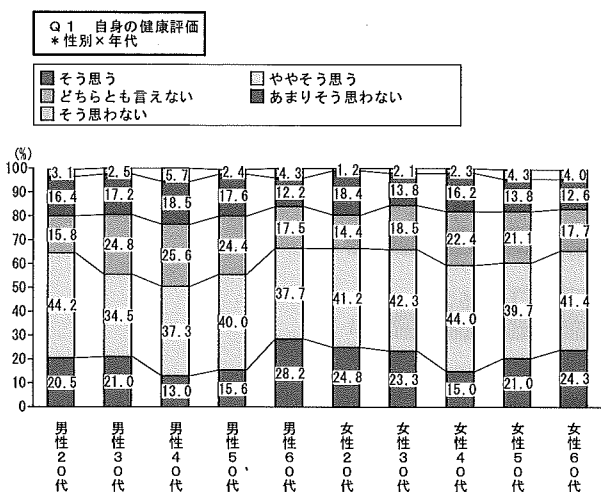


図1 自身の健康評価

問2の自身が健康に関する意識として「当てはまる」、「やや当てはまる」とした人が多い項目は、「自分や家族の健康を気にかけるようにしている」（81.4%）、「体重の増減に気を配るようにしている」（76.2%）、「たばこを吸わない」（74.6%）であり、ついで第4位が「飲酒を控える、または飲んでも適量を心がけている」（70.2%）であった（表4）。「飲酒を控える、または飲んでも適量を心がけている」は、前回（70.8%）とほぼ同じ比率であり、女性は全般に高く、30～50代の男性は意識がやや低く男女の意識差は40代で最大であった（図2）。

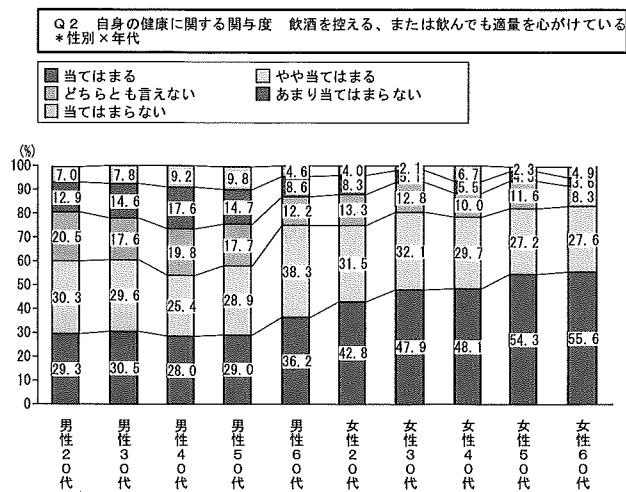


図2 飲酒を控えるまたは飲んでも適量を心がけている人

表4 健康に関する意識

健康に関する意識	n	n + 縦%		
		全体	男性	女性
自分や家族の健康を気にかけるようにしている	29159	81.4	75.0	88.0
体重の増減に気を配るようにしている		76.2	72.3	80.1
たばこを吸わない		74.6	66.7	82.6
飲酒を控える、または飲んでも適量を心がけている		70.2	60.9	79.6
1日3回の食事をきちんと取っている		67.1	64.3	70.0
睡眠を充分とるようにしている		60.8	57.7	64.0
栄養バランスを意識している		58.1	47.1	69.2
食品の安全性にはできるだけ注意を払うようにしている		56.2	43.6	68.8
夜遅い時間の飲食を控えるようにしている		55.6	47.0	64.3
健康診断は定期的に受けるようにしている		53.4	58.2	48.5
惣菜、CVや市販の弁当等は極力控えるようにしている		50.6	41.1	60.2
規則正しい生活を心がけている		48.6	43.3	54.1
できるだけ歩くようにしている		48.3	49.2	47.4
ストレスをためないように心がけている		44.7	41.9	47.4
自分なりの健康法を持っている		40.1	37.5	42.9
必要に応じて栄養補助食品を取るようにしている		36.9	31.8	42.2
スポーツなどで体を動かすようにしている		34.5	36.0	33.0
テレビや雑誌などの健康情報は観るようにしている		33.6	23.7	43.6
食事は会話しながら時間をかけるようにしている		27.6	21.2	34.1
無農薬や有機野菜などの食材を買うようにしている		25.1	18.6	31.7
息が少し弾む程の運動を週2日以上1日30分している		21.8	22.7	20.9

「当てはまる」、「やや当てはまる」の合計割合

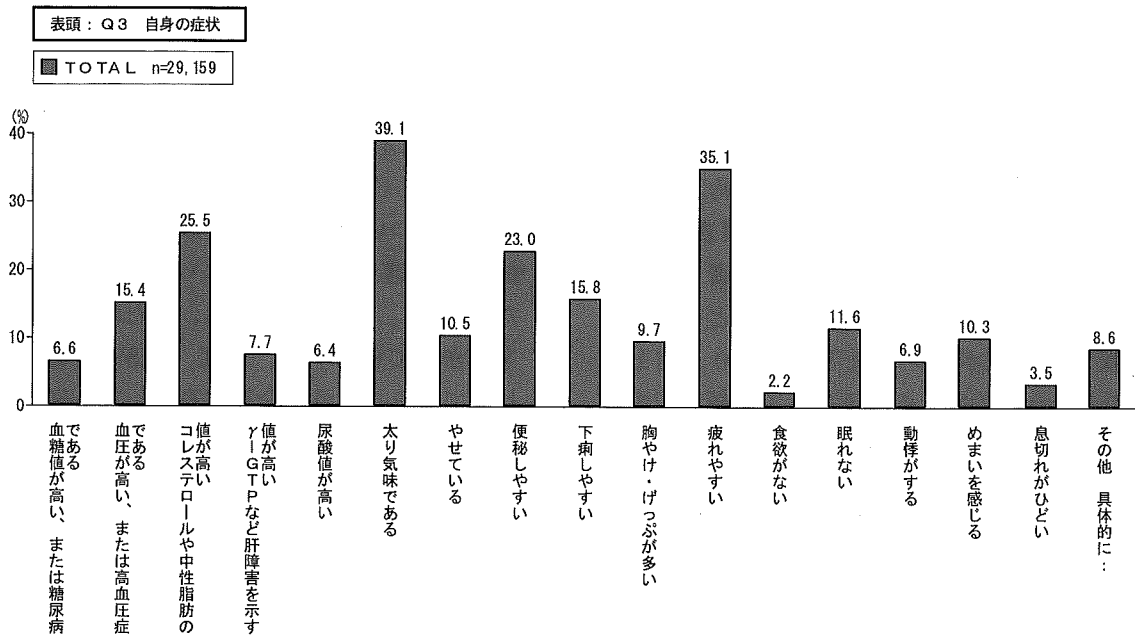


図3 自身の症状（複数回答）

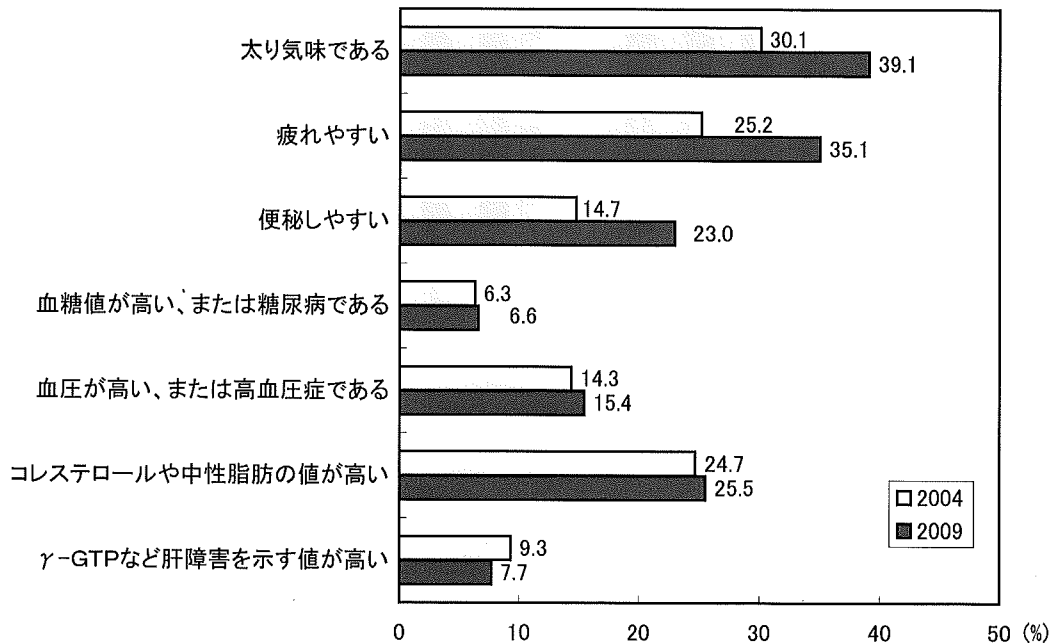


図4 症状の経年変化

問3の自身の症状に関する項目では、「太り気味である」(39.1%)、「疲れやすい」(35.1%)、「コレステロールや中性脂肪の値が高い」(25.5%)、「便秘しやすい」(23.0%)と回答した人が多かった(図3)。前回調査と比較すると「太り気味である」、「疲れやすい」、「便秘しやすい」といった自覚症状を訴える者は10ポイント程度増加し、「肝障害を示す値が高い」など病状を示す人は同じかやや減少している。このことから、病気ではないがなんらかの自覚症状があるいわゆる未病状態の人が増えていることが推定される(図4)。

3. 飲酒実態

(1) 飲酒頻度及び飲酒率(問4)

問4の飲酒頻度に関する回答(図5)から、「以前は飲んでいたがやめた」、「飲まない」以外の者の比率により年代別飲酒率を求めると、男性の飲酒率は約80%で年代間にほとんど差がみられなかったが、20代女性の飲酒率は72.2%と年代間で最も高かった。前回調査と比較すると、男性の飲酒率はあまり変化していないが、女性は、50代で前回55.6%から61.4%、60代で46.0%から56.3%と増加していた。

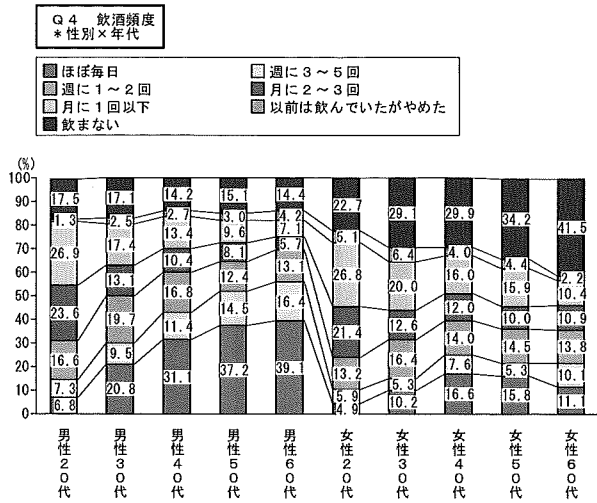


図5 飲酒頻度

20代男女が週に1回以上飲む割合を前回調査と比較すると、女性の24.0%は変わらなかったが男性は36.0%から30.7%へ減少し、30~60代女性より低くなっている。

また、男性は年齢が高いほど飲酒頻度が高く、女性では40~50代が比較的高かった。前回の調査と比較すると、毎日飲む人が男性では40代で前回45.3%から31.1%、50代で45.6%から37.2%、60代で50.7%から39.1%と顕著に減少した一方、女性は、40代で13.1%から16.6%、50代で9.9%から15.8%、60代で7.9%から11.1%とやや増加していた。

(2) 1回の平均飲酒量 (問6)

40代男性の飲酒量が最も多く、女性は20代の飲酒量が多かった (図6)。

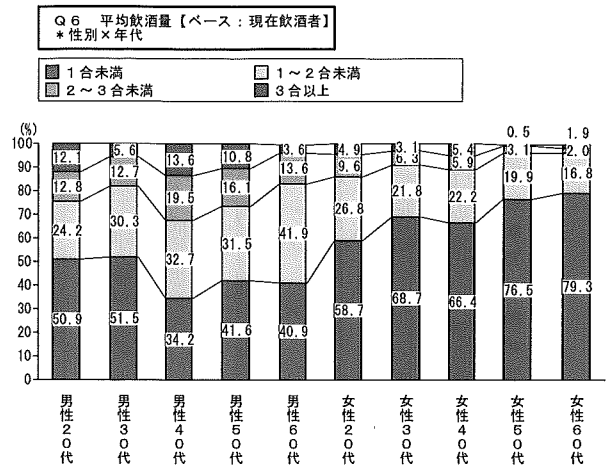


図6 平均飲酒量

4. 非飲酒者の非飲酒動機 (問5)

非飲酒動機として多かったのは、「お酒が好きではないから」(42.8%)、「お酒に弱いから」(41.2%)、「あまりお酒を美味しいと思わないから」(38.0%)であった。また、男性の方が、「以前お酒で健康を害した」、「医者に止められた」という人が多かった (表5)。

健康に関連する非飲酒動機である「健康に良くない」(6.7%)、「以前お酒で健康を害した」(1.9%)、「医者に止められた」(2.9%)は、前回調査(各7.9%、2.5%、3.3%)と大きな違いはなかった。これは、飲酒頻度の減少はみられるものの顕著な飲酒率の低下は起きていないためであると考えられる。「健康に良くない」という理由は20代男性の回答比率が最も高かった。20代の飲酒に関する意識及び行動については後述する。

表5 非飲酒理由 (複数回答)

n + 横%

	n	お酒が好きではないから	お酒に弱いから	あまりお酒を美味しいと思わないから	その他	お酒ではなく、他のこと(趣味など)に時間を使いたいから	健康によくないから	お金を節約するため	通勤・通学、買い物などで車を運転することが多いため	医者に止められたから	以前、お酒で健康を害したから	家族や友人に止められたから	お酒が値上がりしたから
TOTAL	7937	42.8	41.2	38.0	12.5	8.7	6.7	5.4	4.8	2.9	1.9	0.9	0.8
男性20代	516	55.1	38.4	48.1	1.0	17.5	11.8	11.6	6.2	4.5	1.2	0.3	0.4
男性30代	633	49.0	46.9	41.0	4.7	11.2	8.7	8.4	10.7	6.2	3.1	2.2	0.8
男性40代	465	32.6	53.8	34.8	12.4	3.5	5.9	6.2	9.9	7.0	3.5	0.0	0.0
男性50代	594	44.7	44.9	38.5	7.6	8.3	8.1	5.2	5.0	4.1	7.4	0.3	2.3
男性60代	495	44.8	48.1	27.0	7.5	8.1	8.4	4.6	4.1	7.6	3.9	3.7	0.0
女性20代	725	33.5	36.2	33.2	30.7	8.7	7.9	12.6	3.4	3.5	0.4	0.4	3.9
女性30代	1107	36.0	43.7	36.4	19.4	7.0	2.0	2.8	2.3	1.9	1.3	2.9	0.4
女性40代	909	40.1	40.1	42.0	15.3	8.6	4.9	4.7	5.8	0.9	2.4	0.0	0.0
女性50代	1262	45.9	40.3	40.4	10.4	11.8	6.9	3.8	5.3	0.9	0.2	0.2	0.8
女性60代	1232	47.1	32.3	36.7	8.8	4.8	7.4	1.9	1.0	0.9	0.4	0.0	0.0

Q7 酒類選択重視ポイント【ベース：現在飲酒者】
Q7 GT表

■ 重視する □ やや重視する ▨ どちらとも言えない ■ 重視しない
□ あまり重視しない

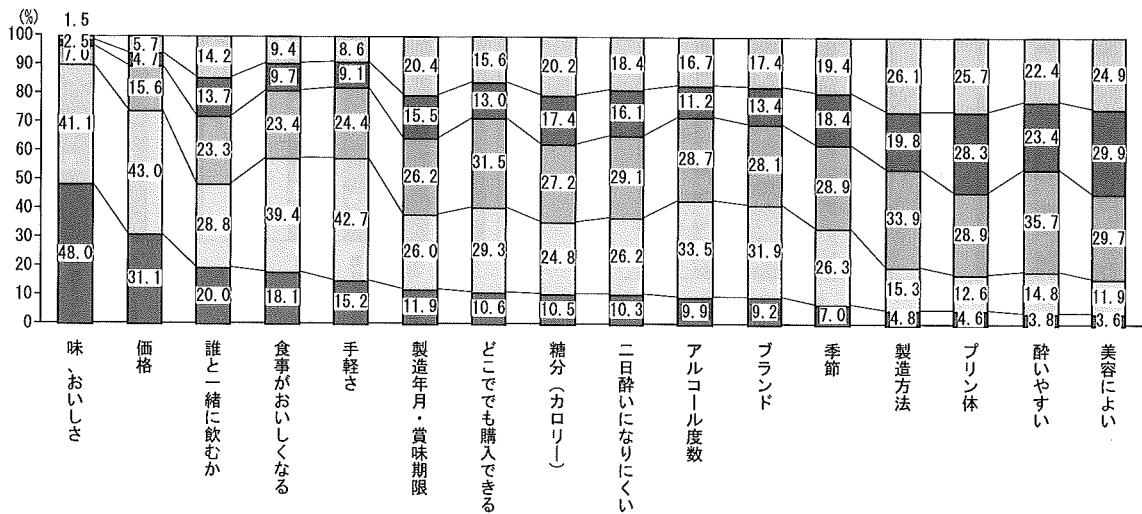


図7 酒類選択重視ポイント

5. 酒類選択時に重視する項目 (問7)

飲酒者が酒類選択時に重視するポイントを「重視する」、「やや重視する」と回答した人の合計割合で比較すると、第1位が「味・おいしさ」(89.1%)、ついで「価格」(74.1%)、「手軽さ」(57.9%)、「食事がおいしくなる」(57.5%)、「誰と一緒に飲むか」(48.8%)であった(図7)。

健康に関連する項目では、「アルコール度数」(43.4%)、「二日酔いになりにくい」(36.5%)、「糖分(カロリー)」(35.3%)が30%を超えており、「製造方法」(20.1%)より多かった。また、「プリン体」及び「美容に良い」は、それぞれ17.2%、15.9%であった。男女比較では、「アルコール度数」、「二日酔いになりにくい」、「糖分(カロリー)」、「美容に良い」を重視する人の比率は女性が有意に高かった(データ省略)。

6. 健康状態及び健康に関する意識と飲酒の関係
(1) 健康評価と飲酒頻度・飲酒量 (問1×問4、問6)

飲酒者における健康評価は飲酒頻度の違いによる大きな差はみられなかったが、「以前飲んでいたがやめた」と回答した人は健康評価の低い者が多く、飲酒しなくなった原因として健康上の問題が考えられた(図8)。

また、1回の飲酒量が3合未満の人では自身の健康評価に「そう思わない」と回答した比率が約2%であったが、3合以上では8.1%と約4倍になった。

Q1 自身の健康評価
Q4 飲酒頻度

■ そう思う □ ややそう思う
▨ どちらとも言えない ■ あまりそう思わない
□ そう思わない

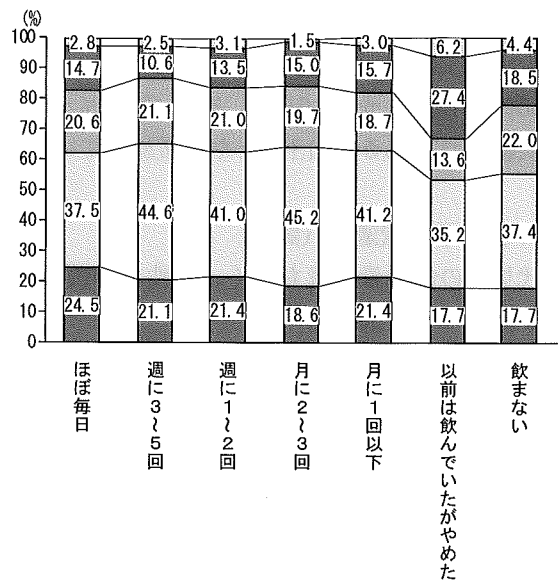


図8 健康評価と飲酒頻度

(2) 健康状態と飲酒頻度・飲酒量 (問3×問4、問6)

各人の個々の健康状態と飲酒頻度のクロス集計では、ほぼ毎日飲むという者は、「血糖値が高いまたは糖尿病である」、「血圧が高いまたは高血圧症である」、「コレステロールや中性脂肪の値が高い」、「γ-GTPなど肝障害を示す値が高い」、「尿酸値が高い」などの健康上の問題を抱えている割合が高い傾向がみられた(表6)。

表6 健康状態と飲酒頻度（複数回答）

n + 縦%

	全体	ほぼ毎日	週に 3～5回	週に 1～2回	月に 2～3回	月に 1回以下	以前は飲 んでいた がやめた	飲まない
	n	29159	5688	2713	4401	3678	4741	1049
血糖値が高い、または糖尿病である	6.6	9.7	7.7	7.1	3.6	4.4	7.6	6.5
血圧が高い、または高血圧症である	15.4	25.5	16.7	13.8	9.0	12.1	19.8	12.4
コレステロールや中性脂肪の値が高い	25.5	27.0	28.5	24.6	23.0	21.7	23.6	27.8
γ-GTP など肝障害を示す値が高い	7.7	16.4	11.2	7.4	4.1	3.5	7.1	4.1
尿酸値が高い	6.4	11.5	10.7	6.4	4.8	3.2	3.9	4.1

特に、血圧、肝機能に関しては「週に3～5回」の者と「ほぼ毎日」の者で顕著に差があった。また、健康状態と飲酒量では、1回の飲酒量が1合未満の者と3合以上の者で健康状態に大きな差があった。

今回の調査は、自己申告であり検査データを伴ったものではない、また飲酒に伴うその他の生活習慣との関係も考えられるが、概ね他のコホート研究^{6,7)}と同様の結果であった。

7. 飲酒時等の心がけ（問9）

飲酒者への健康と酒に関する質問に対し「当てはまる」、「やや当てはまる」と回答した人の合計

割合を表7に示した。女性の方が、飲酒時に健康のことを意識し心がけている割合が高かった。

「イッキ飲みはしないようにしている」(81.9%)、「体調がすぐれないときはお酒を飲まないようにしている」(72.3%)は7割以上が心がけているものの、「休肝日を設けている」(47.6%)、「空腹時の飲酒は避けるようにしている」(46.2%)、「飲む量をあらかじめ決めてしている」(40.1%)、「ある時間を過ぎるとお酒を控えるようにしている」(33.0%)などは5割を下回っており、適正飲酒についての広報をさらに推進していく必要があると考えられた（表7）。「イッキ飲みはしないよう

表7 飲酒時等の心がけ（複数回答）

n + 縦%

飲酒時等の心がけ	全 体	男 性	女 性
	n	21222	11954
イッキ飲みはしないようにしている	81.9	78.3	86.6
体調がすぐれないときはお酒を飲まないようにしている	72.3	66.7	79.5
自分と相性の良いお酒を飲むようにしている	67.0	61.1	74.7
日々の自分の酒量に気をつけている	61.9	59.2	65.7
お酒を飲みながら、話したり騒いだりすることが好きだ	60.8	57.9	64.8
二日酔いにならないようなお酒を飲むようにしている	50.1	46.3	55.0
いろいろな種類のお酒を同時に飲まない	48.8	41.7	58.1
休肝日（お酒を飲まない日）を設けている	47.6	43.1	53.5
空腹時の飲酒は避けるようにしている	46.2	36.4	59.0
飲む量をあらかじめ決めてしている	40.5	35.2	47.6
飲みたくなくても飲み会などに誘われると大抵参加する	37.6	43.1	30.6
ある時間を過ぎるとお酒は控えるようにしている	33.0	30.8	35.8
アルコール度数の高いお酒は飲まないようにしている	32.2	25.7	40.6
お酒を飲むときは飲みただけ飲む	32.1	33.8	29.9
2日以上続けて飲まないようにしている	31.9	26.6	38.9
ストレスをまぎらわすためお酒を飲んでいる	27.3	27.0	27.7
お酒なら何でも飲む	26.8	32.2	19.7
カロリーの低いお酒を飲むようにしている	24.7	18.8	32.2
飲んでいる途中で積極的に水を飲むようにしている	21.7	19.7	24.3
お酒を飲まない日はない	21.2	26.5	14.5
つき合いがあるので飲酒は欠かせない	20.4	27.0	12.0
酔いつぶれるまで飲んでしまうことがある	17.8	21.4	13.0
健康に良いと言われていて飲むようにしている	16.5	13.3	20.5
飲酒の前にあらかじめ乳製品を摂取するようにしている	13.4	12.6	14.4
飲む前後胃腸薬やドリンク剤などを飲むようにしている	12.4	14.3	10.0
テレビや雑誌などの健康とお酒に関する情報は必ず見る	8.9	7.8	10.4
冷たいお酒を飲まないようにしている	7.2	7.2	7.2

「当てはまる」、「やや当てはまる」の合計割合

にしている」について「当てはまらない」及び「やや当てはまらない」と回答した比率は、20代のみが10%を超えており、20代男性で13.6%、20代女性で12.8%であった。酒を飲み始める年代へのイッキのみ防止の啓発は引き続き重要であろう。

8. 酒類に対する健康イメージ

(1) 酒類に対する健康イメージ (問8)

調査対象者全員に、ビール、発泡酒・新ジャンル、日本酒、単式蒸留焼酎、連続式蒸留焼酎、赤ワイン、白ワイン、ウイスキー、ブランデー、チューハイ・サワー、梅酒について「健康に良いと思う」、「やや健康に良いと思う」、「どちらともいえない」、「あまり健康によくない」、「健康によくない」の5段階で質問した回答比率を+2~-2の得点で重み付けを行いイメージ得点として図9に示した。

前回調査と比較すると、日本酒(△32.2)、ビール(△31.8)、連続式蒸留焼酎(△31.2)、発泡酒・新ジャンル(△27.3)、赤ワイン(△25.7)、白ワイン(△25.4)、単式蒸留焼酎(△23.2)で、健康イメージの大きな低下がみられた。一方、梅酒、赤ワイン、白ワインについては、比較的健康イメージが良い酒と考えられている。

(2) 主な酒類ごとの健康と関連するイメージ (問11~17)

ビール、発泡酒・新ジャンル、日本酒、焼酎、ワイン、ウイスキー、チューハイ・サワー別に、「カロリーが高い」、「二日酔いになりやすい」、「糖尿病になりやすい」、「肝臓へ負担がかかりやすい」、「心臓へ負担がかかりやすい」、「痛風になりやすい」、「頭が痛くなりやすい」、「お腹の調子が悪くなりやすい」、「気持ち悪くなりやすい」、「健康に良いとされる成分が含まれる」といったイメージ

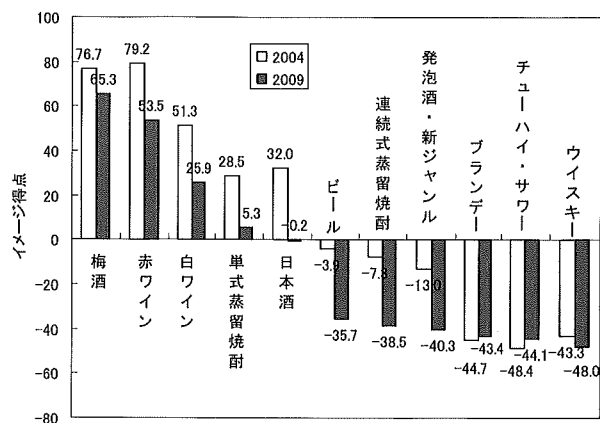


図9 酒類に対する健康イメージ

について「そう思う」、「ややそう思う」と回答した人の合計割合を表8に示した。

ビールは「カロリーが高い」(55.1%)、「痛風になりやすい」(43.9%)と思う人が多かった。発泡酒・新ジャンルは、「カロリーが高い」(22.8%)、「痛風になりやすい」(21.1%)がビールのイメージに対し約半分の割合であり、これは、カロリーオフやプリン体が少ないなどを特性とする製品によると考えられる。また、他の項目においてもビールより負のイメージが少なかった。

日本酒は、「健康に良いとされる成分が含まれる」(31.4%)と思う人が比較的多いが、その他の項目は負のイメージが大きかった。特に「二日酔いになりやすい」(61.7%)、「カロリーが高い」(56.9%)、「肝臓へ負担がかかりやすい」(48.9%)、「頭が痛くなりやすい」(48.8%)「気持ち悪くなりやすい」(47.6%)、「糖尿病になりやすい」(41.1%)と思う者が多く、「カロリーが高い」、「糖尿病になりやすい」と思う人は中高年に比較的多く、50代ではそれぞれ、68.9%、47.4%であった。日本酒が「二日酔いになりやすい」というイメージは、前述の酒類選択時に重視する項目や飲酒時

表8 主な酒類ごとの健康と関連するイメージ

(%)

n=29159	ビール	発泡酒・新ジャンル	日本酒	ワイン	焼酎	ウイスキー	チューハイ・サワー
カロリーが高い	55.1	22.8	56.9	34.5	27.2	41.3	46.8
二日酔いになりやすい	24.5	17.4	61.7	35.3	29.4	53.3	25.4
糖尿病になりやすい	33.8	19.5	41.1	16.7	16.4	23.5	32.4
肝臓へ負担がかかりやすい	31.9	20.4	48.9	19.9	33.3	52.9	22.6
心臓へ負担がかかりやすい	19.2	13.4	30.3	13.0	21.0	35.5	14.7
痛風になりやすい	43.9	21.1	27.1	10.4	12.8	20.2	15.9
頭が痛くなりやすい	21.8	17.4	48.8	29.3	27.0	46.2	21.4
お腹の調子が悪くなりやすい	20.5	12.9	12.3	7.3	9.8	15.7	12.2
気持ち悪くなりやすい	21.5	16.8	47.6	25.4	26.5	43.8	21.6
健康に良いとされる成分が含まれる	12.1	6.7	31.4	64.5	23.0	8.7	8.2

「そう思う」、「ややそう思う」の合計割合

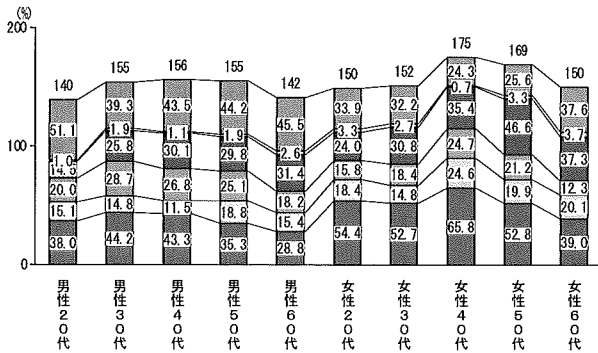
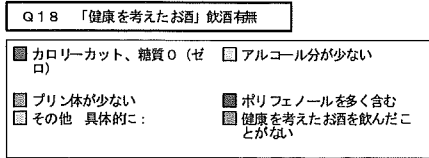


図10 健康を考えたお酒の飲酒の有無(複数回答)

等の心がけからみて消費抑制要因になっていると考えられる。

ワインは、全体的に負のイメージが少なく、「健康に良いとされる成分が含まれる」(64.5%)と思う人が多かった。

焼酎は、「カロリーが高い」(27.2%)、「痛風になりやすい」(12.8%)と思う人が比較的少なかった。しかし、「二日酔いになりやすい」(29.4%)、「頭が痛くなりやすい」(27.0%)、「気持ち悪くなりやすい」(26.5%)に対する20代のイメージは、それぞれ45.3%、35.8%、38.9%であり、あまり良くなかった。

ウイスキーは、「糖尿病になりやすい」(23.5%)と思う人や「健康に良い成分が含まれる」(8.7%)と思う人は少なく、それ以外では日本酒のイメージと似通っていた。「二日酔いになりやすい」(53.3%)、「頭が痛くなりやすい」(46.2%)、「気持ち悪くなりやすい」(43.8%)と思う人は20代にやや多く、それぞれ57.8%、48.9%、50.2%であった。

チューハイ・サワーでは、「カロリーが高い」(46.8%)と思う人が多く、特に20代女性では60.8%、30代女性では61.8%と高い比率であった。

9. 健康を考えたお酒の飲酒の有無及びその飲酒理由(問18、19)

女性の方が、健康を考えたお酒を飲んだことがあるという人が多く、中では「カロリーカット、糖質0」、「ポリフェノールを多く含む」、「アルコール分が少ない」が男性各年代と比較して多く、男性は「プリン体が少ない」が女性各年代と比較し

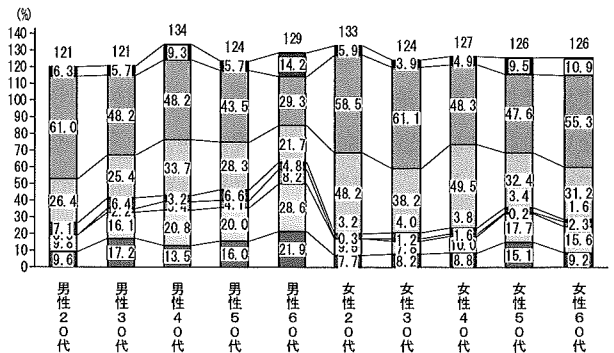
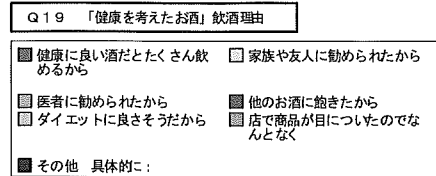


図11 健康を考えたお酒の飲酒理由(複数回答)

て多かった(図10)。

その飲酒理由では、「店で商品が目についたのになんとなく」が最も多かったが、その他では、女性は「ダイエットに良さそうだから」、40~60代男性は「家族や友人に勧められたから」が比較的多かった(図11)。

10. 表示に対する関心分野(問20)

表示に関する関心分野について、「まったく気にしない」、「あまり気にしない」、「やや気にする」、「気にする」、「かなり気にする」の5段階で質問した回答比率を、0~+4の得点で重み付けを行いイメージ得点として図12に示した。添加物(酸化防止剤、保存料、色素など)、遺伝子組み換え原料使用の有無、契約栽培、有機栽培、水(水源、天然水など)、国産原料の関心が高く、男性に比べ女性の関心が高かった。

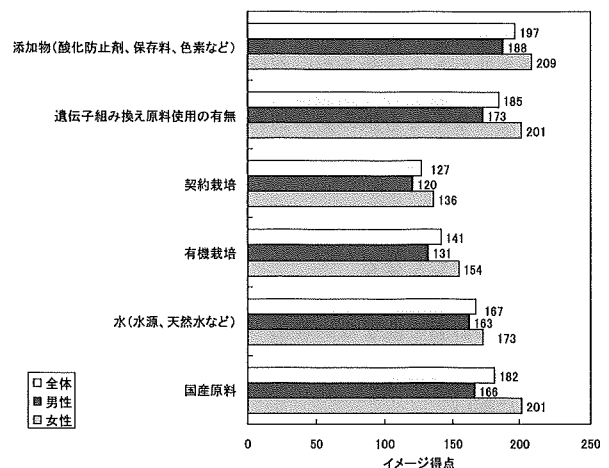


図12 表示に関する関心分野

11. 20代の飲酒に関する意識及び行動

最近の成人の飲酒実態と生活習慣に関する実態調査研究⁷⁾によると、20～24歳において女性の飲酒割合が男性を上回ったと報告されている。今回の調査においても、20代女性の飲酒割合は、30～40代の女性に比べ約5ポイント高かった。また、飲酒者の平均飲酒量も20代男性が40代男性より少ないのに対し、20代女性は40代女性より多くなっている。しかし、週に1回以上飲む割合は40代女性の方が高い。

今回の調査項目から、性別年代別に飲酒に対する意識・行動の比較を行った。表9には男女20代40代のデータを示した。

20代女性の「お酒を飲みながら、話したり騒いだりすることが好きだ」は男性各年代より高く、「つき合いがあるので飲酒は欠かせない」や「飲みたくなくても飲み会などに誘われると大抵参加する」は40代男性と同等であった。「お酒を飲むときは飲みただけ飲む」も40代女性と大きく異なっている。また、酒類選択時に重視するポイントから、20代女性では「誰と一緒に飲むか」というコミュニケーションを重視していることがうかがえる。

20代男性も、40代男性と比較すると「お酒を飲みながら、話したり騒いだりすることが好きだ」、「つき合いがあるので飲酒は欠かせない」や「飲みたくなくても飲み会などに誘われると大抵参加

する」という比率が高く、さらに「誰と一緒に飲むか」というコミュニケーションを重視していることがうかがえる。しかし、彼らが週に1回以上飲む割合は、30～60代女性より低い。

一方、非飲酒者のお酒を飲まない理由では、20代男女の「お金を節約するため」は他年代に比べて高く1割を超えている。これは近年の経済状況を反映されていることが考えられる。また、20代男性の飲酒しない理由においては、「お酒が好きではない」(55.1%)、「あまりお酒を美味しいと思わない」(48.1%)という比率が性別年代別のなかで最も高く「お酒に弱い」(38.4%)を上回っている。さらに、「お酒ではなく他のこと(趣味など)に時間を使いたい」(17.5%)、「健康によくない」(11.8%)も最高比率であった。

以前は、男性を中心に地域や会社などで飲酒を通じてつきあいを教える機会があったが、現在は個人的な飲酒が主流になっているといわれている。しかし、現在の20代はコミュニケーションを重視しており飲み会への参加などへの積極性もみられる。若い年代に対して、特定の酒類に関する断片的な情報ではなく、酒と健康に関する正確な知識とともに、それぞれに異なる酒の個性や飲み方などについて様々な機会を通じて伝えていくことが重要ではないかと考えられる。

表9 20代40代男女の飲酒に対する意識・行動の比較

(%)

	男性 20代	男性 40代	女性 20代	女性 40代
飲酒率：飲まない、以前飲んでいてやめた以外	81.2	83.1	72.2	66.1
飲酒頻度：週に1回以上	30.7	59.3	24.0	38.2
飲酒者の1回平均飲酒量：日本酒換算1合以上	49.1	65.8	41.3	33.5
飲酒者の意識・行動：「当てはまる」、「やや当てはまる」の合計	60.7	59.3	68.2	66.4
お酒を飲みながら、話したり騒いだりすることが好きだ	47.5	38.1	46.3	33.6
お酒を飲むときは飲みただけ飲む	32.2	24.9	22.8	12.6
つき合いがあるので飲酒は欠かせない	48.5	38.5	40.2	31.8
酒類選択時に重視するポイント：「重視する」、「やや重視する」の合計	86.3	83.1	94.7	91.2
味、おいしさ	74.8	70.2	78.9	78.5
価格	52.7	53.0	63.9	62.0
手軽さ	54.2	52.2	59.3	68.7
食事がおいしくなる	62.5	45.1	68.4	49.5
誰と一緒に飲むか				
非飲酒者のお酒を飲まない理由（複数回答）				
あまりお酒を美味しいと思わない	48.1	34.8	33.2	42.0
お酒が好きではない	55.1	32.6	33.5	40.1
お酒に弱い	38.4	53.8	36.2	40.1
健康によくない	11.8	5.9	7.9	4.9
お酒ではなく他のことに時間を使いたい	17.5	3.5	8.7	8.6
お金を節約するため	11.6	6.2	12.6	4.7

ま と め

消費者の健康に関する意識と酒類消費との関係調査を行い、次のような結果を得た。

- (1) 全体の約6割の人が「自分を健康だと思う」と肯定的に回答した。これは前回調査から8.9ポイント低下した。
- (2) 全体の約7割の人が「飲酒を控えるまたは飲んでも適量を心がけている」と回答した。これは前回調査とほぼ同じ比率であり、女性は全般にその意識が高く、30~50代の男性の意識はやや低かった。
- (3) 個別の健康状態に関する項目では、「太り気味である」、「疲れやすい」、「コレステロールや中性脂肪などの値が高い」、「便秘しやすい」と回答した人が多かった。前回調査と比較すると「太り気味である」、「疲れやすい」、「便秘しやすい」など自覚症状を訴える人が10ポイント程度増加し、「肝障害を示す値が高い」など病状を示す人は同じかやや減少した。これらから、病気ではないがなんらかの自覚症状があるいわゆる未病状態の人が増えていることが推定される。
- (4) 女性では20代の飲酒率が最も高く、1回の平均飲酒量も最大であったが、飲酒頻度は月に3回以下という人が多かった。男性では40代の飲酒率が高く飲酒量も多かった。男性の飲酒頻度は、年齢が高いほど高かったが、毎日飲む人は前回調査に比べ減少した。20代男性で週に1回以上飲む人は、30~60代女性より少なかった。
- (5) 非飲酒者の非飲酒動機のうち、健康に関する動機については前回調査と大きな違いはなかった。20代男女では、経済的な動機が他年代より高く、20代男性の「お酒が好きではない」、「あまりお酒を美味しいと思わない」、「お酒ではなく他のこと（趣味など）に時間を使いたい」、「健康によくない」は全年代性別中最高比率を示した。
- (6) 酒類選択時に重視するポイントのうち健康関連では、「アルコール度数」、「二日酔いになりやすい」、「糖分」が3割を超えており、「製造方法」より高かった。
- (7) ほぼ毎日飲むという人は、血糖値、血圧、コレステロール・中性脂肪、肝機能、尿酸値などの健康上の問題を抱えている割合が高い傾向がみられた。また、1回の飲酒量が1合未満の者と3合以上の者で、健康状態に大きな差があった。
- (8) 飲酒と健康に関する心がけでは「イッキ飲みはしない」等は概ね意識されているが、飲酒量や頻度などに関する心がけは5割以下であった。
- (9) 酒類に関する健康イメージは、前回調査に比べ大きく低下した。酒類別では、ビールは「カロリーが高い」、「痛風になりやすい」と思う人が多かった。発泡酒・新ジャンルはビールより負のイメージが少なかった。日本酒は「健康に良い成分が含まれる」と思う人は比較的多いが、その他の項目は負のイメージが大きかった。醸造酒の中でワインは全体的に負のイメージが少なく「健康に良い成分が含まれる」と思う人が多かった。焼酎は全体的には負のイメージが少ないが、20代のイメージは「二日酔いになりやすい」、「頭が痛くなりやすい」、「気持ち悪くなりやすい」においてあまり良くなかった。ウイスキーは、「健康に良い成分が含まれる」と思う人は少なく、「糖尿病になりやすい」以外では日本酒と似通っていた。チューハイ・サワーでは、「カロリーが高い」と思う人が多く、特に20~30代女性では高い比率であった。
- (10) 健康を考えたお酒を飲んだことがある人は女性の方が多く、中では「カロリーカット、糖質0」、「ポリフェノールを多く含む」、「アルコール分が少ない」が男性各年代と比較して多く、男性は「プリン体が少ない」が多かった。また、その飲酒理由では、女性はダイエットに良さそう、40~60代男性は家族や友人のすすめという比率が高かった。
- (11) 表示に関する関心分野では、食品添加物、遺伝子組み換え原料、国産原料への関心が高く、男性に比べ女性の関心が高かった。

参 考 文 献

- 1) 今田純雄, 鈴木千尋: 広島修大論集, 40, 285-302 (2000)
- 2) 鈴木崇, 尾高康夫, 木下実: 酒類総合研究所報告, 176, 3-119 (2004)
- 3) 荒巻功, 鈴木崇, 尾高康夫, 木下実: 醸協, 101, 290-305 (2006)

- 4) 厚生労働省：平成16年国民生活基礎調査
- 5) 厚生労働省：平成19年国民生活基礎調査
- 6) 社団法人アルコール健康医学協会編：ハンドブック アルコールと健康，社団法人アルコー

ル健康医学協会（2005）

- 7) 石井裕正，樋口進，上島弘嗣：厚生労働科学研究，文献番号200825026A（2009公開）